

V. (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の事業活動(2006年度)

長村 文夫

(財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団事務局)

はじめに

本報告書を作成している時点で、2006年度(2006年4月～2007年3月)の事業はまだ、ほぼ半ばを遂行した状態である。その意味で、これはいわば中間報告ということになる。

本年度(2006年)の事業計画は、昨年度までの事業活動の多くを継承するとともに、いくつかの新規事業を立ち上げた。

新規事業としては、下記「15. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究」「16. ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す実践セミナー」の2件だが、「4. 緩和ケア実践セミナー」もこれまでの年間1～2回を3回とし、少しでも多くの医療従事者に緩和ケアへの理解を深めていただく機会を提供することを願っている。また、「13. 『ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム』」と「17. 遺族のグリーフケア支援冊子『これからのとき』」は、いずれも前年度から継続してきた事業で、本年度に入って刊行配布することができた。

継続的な事業活動の中でも、「1. 調査研究」は今年度初めて公募制度とし、審査の結果、5件が採用され、現在進行中である。

特別プロジェクトとしては、第30回日本死の臨床研究会年次大会に関連したグリーフセラピーワークショップおよび特別講演の開催助成を実施した。

以下、2006年度の事業の進捗状況の概略を記述する。なお、本稿は2006年12月28日に執筆したもので、文中のお名前については順不同、敬称は略させていただいた。

事業活動

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (5件一進行中)

- ①日本人遺族に応じた遺族ケアのあり方に関する研究
- ②緩和ケアにおける代理評価尺度 STAS-J 症状版の作成と評価者間信頼性の検討
- ③緩和ケアのための標準カルテ・フォーマットの作成
- ④新臨床研修制度における緩和医療教育プログラムの作成と提言
- ⑤ Staff grief and support system for Japanese health care professionals working in palliative care

本年度から公募制度を実施、申請内容を事業委員によって審査のうえ、上記5件を決定した。

2. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を、医療従事者と共に一般の方々にも深めていただくために、講演とパネルディスカッションを軸としたプログラムで開催する。2001年度から2005年度までに全国18都市で開催。本年度は宮崎市での開催を予定している。

2007年3月10日(土) 会場：宮崎市民プラザ・オルブライトホール

内容：

第一部「音楽と講演」

音楽—森 裕理

基調講演—柏木哲夫(金城学院大学学長、
財団理事長)

第二部「シンポジウム」それぞれの立場から考えるケア

司会—井田栄一（熊本ホームケアクリニック院長）

シンポジスト—横山晶子（三州病院 緩和ケア病棟，医師），那須聡子（訪問看護ステーション なでしこ2号館，看護師），橋 直子（山口赤十字病院，ソーシャルワーカー），ほかに遺族の立場から

3. ホスピス・緩和ケア教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者のよりいっそう高い専門性の確立を目指して，講義とワークショップなどのプログラムで行う。2002年度からの継続事業で，ホスピス・緩和ケア従事者の要望に応えるため，2005年度からは年2回開催。

① 2006年9月30（土）～10月1日（日）

「緩和ケアについて極めよう，語ろう，癒されよう」昭和大学横浜市北部病院，参加者71名

② 2007年3月3日（土）～3月4日（日）

昭和大学横浜市北部病院

4. 緩和ケア実践セミナー開催事業

2001年度財団事業として刊行配布した『がん緩和ケアに関するマニュアル』（2005年改定第2版刊行配布）を教材にして，ホスピス・緩和ケア従事者以外の地域の病院，クリニックなどの一般の医療従事者，訪問看護師などに緩和ケアを学ぶ機会を提供することを目指している。

2002年度に東京で第1回を実施，2004年度以降は対象者たちからの要望に応えるかたちで年間2回（2都市）開催してきたが，本年度からはさらに年3回に増やしての実施を予定している。

① 2007年1月27日（土）栃木県総合文化センター（栃木県立がんセンター 共催）

② 2007年1月27日（土）アイーナ岩手県民情報交流センター（岩手県立中央病院 共催）

③ 2007年2月17日（土）愛知県がんセンター国際医学交流センター（愛知県がんセンター中央病院 共催）

5. ホスピス・ボランティア研修事業

ホスピス・緩和ケア病棟のボランティアの向上をめざして，全国病院ボランティア協会との共催で2002年度以来継続して開催している。2002年度は初年度だったので，「ホスピス・ボランティ

ア全国大会」という形式をとって大阪で開催，2003年度はより実質的なプログラムを組み，全国3都市（福岡，静岡，京都）で開催，2004年度は東京で開催，昨年度は鹿児島と札幌で開催した。

① 5月31日（水）会場：広島県立生涯学習センター ばれっと ひろしま，参加者106名
講師：本家好文（広島県緩和ケアセンター・センター長）

② 6月10日（土）会場：岩手県立中央病院，参加者68名
講師：清水千世（（財）慈山会医学研究所附属 坪井病院，ホスピス病棟看護課長）

6. APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業

アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア活動を推進し，その質を向上させるためにシンガポールに設立された法人であるAPHNの活動を支援することを通して，地理的・文化的に親密なこの地域のホスピス・緩和ケア活動の進展と相互交流に寄与することを図る。本年度（2006年度）は，現在までに，モンゴリア，インドネシア，中国，台湾へのホスピス・緩和ケア啓発活動を支援している。

7. 医学生への緩和ケア教育のための教員セミナー 助成事業

当財団の調査研究事業の成果のひとつである「大学医学部の緩和ケア教育カリキュラムと教科書の作成の提言」を踏まえて作成された教材を用いて，医学生への緩和ケア教育にあたる教員を対象とするセミナー（「大学病院の緩和ケア教育を考える会」主催）を支援助成。

2006年10月21日（土）～22日（日）昭和大学横浜市北部病院，参加者57名

8. グリーフケア・ワークショップ 2006 開催 助成事業

特定非営利活動法人 栄光ホスピスセンター（福岡）がオーストラリアからグリーフケアに関する専門講師を招き，研修会を開催する企画を，2003年度以来，引き続いて助成。

講師：リンダ・エスピー氏（グリーフカウンセラー・グリーフケア教育者・グリーフケ

アスーパバイザー)

①グリーンケア・ワークショップ 2006

Summer

入門：2006年7月29日(土)

中級：2006年7月30日(日)～8月1日(火)

上級：2006年8月3日(木)～4日(金)

会場：福岡国際会議場および特別医療法人栄光会 栄光病院，参加者総数111名

②グリーンケア・ワークショップ 2007 Winter

入門：2007年1月18日(木)

中級：2007年1月19日(金)～21日(日)

フォローアップ：2007年1月23日(火)～24日(水)

会場：福岡国際会議場

9. ホスピス・緩和ケア病棟師長のための教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア病棟の看護師長たちが現場で直面する病棟管理上の課題を明確にし、互いに課題を共有するためのワークショップを開催し、看護師長たちのスキルアップの機会を提供する。

2005年度に第1回のセミナーを開催、本年度は第2回となる。

2006年12月8日(金)～9日(土) アルカディア市ヶ谷

10. STAS (Support Team Assessment Schedule) ワorkshop開催事業

英国で開発されたケアの評価方法である STAS 日本語版を用いて、ケア従事者を対象に「毎日のケアを見直すための演習と講義」のワークショップ形式で開催する。昨年度が初年度で、東京(参加者151名)と山口(参加者70名)の2都市で開催した。本年度は下記の2会場で、それぞれの日時に開催しました。

① 2006年9月23日(土) アクトシティ浜松 参加者84名

② 2006年11月5日(日) 大阪国際会議場(「日本死の臨床研究会」会場内)，参加者240名

11. スピリチュアルケア援助プロセスのワークショップ開催事業

緩和ケアに携わる医師、看護師などの医療従事

者を対象に、定式化されたスピリチュアルケアの援助プロセスについての講義と演習。昨年は札幌市、鹿児島市、高崎市で開催。本年度は下記の2都市で開催。

講師：村田久行(京都ノートルダム女子大学人間文化学教授)

① 2006年10月8日(日) 大分市 コンパルホール，参加者：54名

② 2007年1月7日(日) 横浜市 ウイリング横浜

12. 『ホスピス・緩和ケア白書 2007』刊行配布事業

2003年度(白書2004)以降、年度毎に新しいテーマを立てて白書を刊行してきた。昨年度のテーマは「緩和ケアにおける教育と人材の育成」。本年度は、「緩和ケアにおける専門性—緩和ケアチームと緩和ケア病棟」である。従来は毎年1,500部を作成し、日本ホスピス緩和ケア協会会員の病院、がん診療拠点病院、厚生労働省、都道府県・市の健康福祉担当、財団賛助会員などを中心に配布しており、本年度も同様の配布を計画している。

13. ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム研究事業

2003年度よりの継続研究事業で、ホスピス・緩和ケアに従事する専従医或いは専従医を目指す方々のスキルアップのためプログラムというこの貴重な研究成果を、単に研究レポートに終わらせるのではなく、できるだけ多くの方が活用できるようにということで、本年度に刊行配布を実施した。

『ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム』2006年7月刊行・配布

14. 一般広報活動事業

『ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム』『これからのとき—大切な方をなくしたあなたへ』をホームページに新規に掲載。その他、ホームページの部分的改訂を実行。

2005年度の調査研究事業の成果を例年同様、ホームページに掲載予定。

財団ニュース第11号を10月に発刊、配布。第12号を3月に発刊予定。

財団パンフレット（和文）（英文）の改訂。

15. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究事業

ホスピス緩和ケア協会会員の病院を中心に、ホスピス・緩和ケア病棟でケアを受けた患者の遺族に、その受けたケアの満足度についてのアンケート調査を実施する。なお、この研究は複数年度を前提とし、次年度はそれらの満足度と当該ケアに費やされた医療費との相関関係を考究する。

16. ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す実践セミナー開催事業

ソーシャルワーカーのスキルアップを図るためのセミナーを東京（5月）と山口（10月）とで実施する。プログラム内容は、「がん患者・家族の心理社会的ニーズの把握とその支援」「ホスピス・緩和ケアの医療チームアプローチにおけるソーシャルワークの実際」などをテーマとし、講義とロールプレイ形式で実施。

① 2006年5月14日（日）国立がんセンター（東京）、参加者56名

② 2006年10月29日（日）山口ばるる（山口市）、参加者34名

17. 遺族支援のための情報提供事業

遺族にとって、悲嘆からの回復は大きな課題である。遺族に提供されるべき知識や情報の内容を吟味し、遺族の悲嘆プロセスについての一般的知識をまとめた研究成果であるグリーフケア支援冊子『これからのとき—大切な方をなくしたあなたへ』約6,000部を刊行、配布（9月）。

18. 特別プロジェクト・国際セミナー支援事業

第30回日本死の臨床研究会年次大会に関連し

たグリーフセラピーワークショップおよび特別講演の開催助成

11月3日（金）～4日（土）

大阪国際会議場

講師：ロバート・A・ニーマイヤー氏（メンフィス大学心理学部教授）招聘

19. 福岡ホスピスフォーラム助成

2006年9月30日（土）福岡国際会議場、参加者122名

テーマ：「すべての人に緩和ケアを」

講師：柏木哲夫（金城学院大学学長、財団理事長）

沼野尚美（六甲病院、チャプレン・カウンセラー）

おわりに

2006年4月に実施された診療報酬の改定で実現された在宅ケアの支援促進、6月に成立した「がん対策基本法」における公的機関への緩和ケアのための施策推進の義務づけなど、設立以来ホスピス・緩和ケアの普及と向上を願って事業活動を続けてきた当財団にとっては明るい年といえるかと思う。

最初に記述したように、現時点では本年度に計画された事業のうち未達のものはいくつかあるが、いずれも順調に準備が進行していることをご報告する。

本年度もまた、当財団の事業が多くの方々を支えられて進められていることを覚え、感謝いたします。